

## 一 般 演 題

### 1. IRMA 法による「HBV キット「栄研」HBs 抗原」 kit の検討

田原 隆 一矢 有一 桑原 康雄  
大塚 誠 増田 康治 山口 育子

(九州大・放)

モノクローナル抗体を固相化したビーズを用いた IRMA 法による「HBV キット「栄研」HBs 抗原」の有用性について検討した。基礎的検討、短時間法と2日法の比較、ダイナボット社製「オースリア II-125」との比較を行った。その結果、再現性の検討では、測定値にやや変動がみられる検体があったが、判定に影響することはなかった。希釈試験では、従来のキット同様、低希釈域で直線性が得られず、本キットでも通常の方法による定量的測定は難しいと思われた。短時間法と2日法の比較では、2日法の方が感度が高かった。211例における「オースリア II-125」との比較では両者の測定量、判定結果ともよく一致し、本キットは十分臨床に使用できるものと考えられた。

### 2. イムラジオメトリックアッセイ法による血中フェリチン測定の基礎的、臨床的検討

大浪 俊平 黒田 環 栄 文也  
(産業医大・放部)  
塩崎 宏 中田 肇 (同・放)

悪性腫瘍や血液疾患の診断および治療効果判定における血清学的アプローチとして、血中フェリチンを測定することは有用とされ、すでに数多くの臨床報告がなされている。

今日、市販されているフェリチン測定キットは二抗体固相法による RIA が主流であり、B/F 分離の際に遠心操作を必要とするなど、測定手技がやや煩雑である。今回、操作の簡便性や検出感度に優れたイムラジオメトリックアッセイ法を用いた「リアグノスト、フェリチン」キットが開発されたのを機会に、本法の基礎的検討ならびに臨床的有用性について検討したので、その成績について報告する。

### 3. Ab ビーズ IgE 「栄研」kit の基礎的検討

千葉さおり 町田由美子 山口 恭子  
市場 元子 岩崎 宏司 計屋 慧實  
木下 博史 林 邦昭 (長崎大・放部)

【目的】 アトピー性疾患や寄生虫感染症などの補助診断としての血中 IgE 濃度測定は、従来から RIST (Radio Immuno Sorbent Test) 法や二抗体法、また酵素法などで行われている。しかしこれらの方法はいずれも低濃度域から高濃度域までを一つの測定系の中で測定できなかった。今回この点を改良、さらにビーズ固相法を用いて操作を簡略化した [Ab ビーズ IgE 「栄研」] kit について、基礎的検討を行った。

【結果】 標準曲線、測定内、測定間の再現性は、いずれも C.V. が 8.5% 以内、回収率試験でのそれは、平均 96% と良好であった。希釈試験で IgE 濃度約 3,500 IU/ml 以下では良好な直線性を示した。また RIST 法とは相関係数  $r=0.985$  とよく相関した。これらの検討の結果を報告した。

### 4. 急性心筋梗塞検出における $^{99m}\text{Tc}$ -PYP, $^{201}\text{Tl}$ -Cl dual mode SPECT

矢野 文良 一矢 有一 桑原 康雄  
大塚 誠 田原 隆 橋口 典久  
増田 康治 (九州大・放)

急性心筋梗塞 10 例に  $^{99m}\text{Tc}$ -PYP,  $^{201}\text{Tl}$ -Cl dual mode SPECT を施行し、その有用性について検討した。 $^{99m}\text{Tc}$ -PYP は検査開始の 3 時間前に、 $^{201}\text{Tl}$ -Cl は 5 分前に静注した。エネルギーウィンドウは、それぞれ  $140 \pm 14$  keV,  $80 \pm 8$  keV に設定した。両者の SPECT 像を重ね合わせて判定することにより、 $^{99m}\text{Tc}$ -PYP の集積部位の同定と心プール像の除外が容易であり、急性心筋梗塞の診断に有用であった。